

あつま

生涯学習だより

発行 厚真町教育委員会 電話 27-2495

主な記事

- ①厚真町二十歳のつどい
- ②あつひゃく／第3期英会話教室
- ③ディスカバリーカルチャー／室内ソフトボール／令和6年度スケート教室
- ④就学援助のお知らせ／ひなんの家のほり掲揚について／12月定例教育委員会
- ⑤図書室だより
- ⑥放課後子ども教室活動報告

人生の節目をふるさとで祝う

第3回厚真町二十歳のつどい

1月12日（日）、第3回厚真町二十歳のつどいを総合福祉センターで開催しました。今年度は、平成16年4月2日から平成17年4月1日までに生まれた30人が対象。当日は、男性15人、女性10人の合計25人が華やかな振袖や真新しいスーツに身を包み、20歳という人生の大きな節目を共に祝いました。

式辞では、遠藤教育長から「自分の能力や境遇を他人と比べて一喜一憂するのではなく、過去の自分を最大の、そして最良のライバルとして成長の糧にして、これからの人生を切り開いていってほしいと思います。」と出席者に向けて激励の言葉が贈られました。

また、4人の代表者で立ち上げられた二十歳のつどい実行委員会には、式典の企画や運営に携わっていただきました。式典終了後、アトラクションとして実行委員会の進行で厚真町にまつわる〇×クイズを実施。出席者をはじめ、保護者の方々や来賓の皆様にもご参加いただき、ふるさと厚真の魅力を再発見する貴重な機会となりました。

今回、記念品として出席者に贈られた木の時計は実行委員会の4人が選定したものです。厚真の木でつくられた温かみのある時計は、きっと皆さんの暮らしを優しく見守ってくれることでしょう。ぜひ、日常生活の中で役立てていただければと思います。



100年先の厚真を創る、100の学び場プロジェクト 開催しました 「大切なのは、大人も変わっていくことなのかもしれない」

教育委員会では、昨年12月15日（日）に、100年先の厚真を創る100の学び場プロジェクト「あつひやく」を開催しました。このプロジェクトは、地域の方々と一緒に、これからの教育をより良くしていくために何ができるかについて協議する場として、令和4年度から取組を進めており、今回で7回目の開催となりました。

午前は厚南会館、午後は青少年センターを会場に「これから未来を生きていく子どもたちにとって必要な力とは」というテーマで、参加者同士が子どもたちへの願いや想いを中心に話を進めました。



厚南会館でのワークショップの様子



初めて中学生も参加した青少年センター会場

今回のワークショップで出された意見の中には、「たくさん失敗できる力」「なにかに熱中する力」など自分に関するもののほか、「他者を気遣う力」「人の話を聞ける力」などの他者との関わり、「地域の人と出会う」「世代間交流」などの地域との関わりについてなど、様々な意見が出されました。

今回のワークショップでの発見は、子どもたちへの願いと同時に、個々で出されている力は、厚真町で暮らす大人にも必要な力なのではないかということです。

令和8年度から新しくなる教育振興基本計画の策定に向けて本格化するこの1年。たくさんの方々 의견을反映できるよう取り組んでいきます。



街頭アンケート
ご協力に感謝！

大人気の英会話教室 第3期も始まります！

教育委員会では、下記の日程で英会話教室を開催します。今年度は、新たに幼児や小学生、その保護者も対象にしたビギナークラスを実施しています。「英語に触れる」「英語を楽しむ」ことを目的とした時間となりますので、ぜひたくさんの方々のご参加をお待ちしています。

【第3期英会話教室】

日 時：1月29日（水）～3月12日（水）までの毎週水曜日

ビギナークラス 午後5時30分～午後6時15分

アドバンスクラス 午後6時15分～午後7時00分

場 所：厚真町青少年センター2階

参加費：無料 対 象：どなたでも参加できます



メリッサ先生



詳細について

日本舞踊の奥深さについて学ぶ 新しい何かに出会う場所「ディスカバリーカルチャー」

教育委員会では、1月11日（土）に青少年センターを会場に、第4回目のディスカバリーカルチャーを開催しました。今回は日本舞踊をテーマに、文化協会に所属する日本舞踊教室哉メ座の代表である西川祿満さんを講師に招き、町内外から13人の参加がありました。

講座の中では、日本舞踊の流派や歴史について学んだほか、実際に日本舞踊の動きを取り入れた準備運動や体験を実施。お馴染みの扇子や棒を使いながらの動きは思っていた以上に複雑で、参加者からは「すごく難しいけど、楽しい」という感想が聞かれました。



準備運動を行っている様子

【第28回】室内ソフトボール大会

冬季期間の町民の健康・体力づくりと町民同士のふれあいを目的として「第28回室内ソフトボール大会」を開催します。体を動かしてリフレッシュしてみませんか！皆様のご参加お待ちしております。

◆と き 2月12日（水）～14日（金）
開会式（初日のみ）午後6時から
第1試合 午後6時30分開始
第2試合 午後7時30分開始
第3試合 午後8時30分開始

◆と こ ろ あつまスタードーム

◆出場資格 町民または町内の職場・学校に所属する方、及びそのご家族で中学生以上の方チーム編成については自由となります。ただし、複数チームへの選手の二重登録はできません。

◆問 合 せ 教育委員会社会教育グループ ☎27-2495

◆申込み 2月4日（火）午後5時まで
各自治会や前大会出場チームに申込用紙を配付していますので記入の上、厚真町教育委員会へ提出してください。（先着12チーム）

厚真の冬を 楽しもう！ 令和6年度スケート教室

1月8日（水）～10日（金）にかけて、町民スケートリンクで町内の小学1年生～4年生を対象としたスケート教室を実施しました。

当日は学年やレベルごとにチーム分けをし、講師の方々にそれぞれの習熟度に合った指導をしていただきました。

最初はリンクの上に立つことで精いっぱいの様子だった児童も、教室の終盤では、補助用の椅子をつかみながら前に進むことができました。

寒い冬は外に出ることも億劫になりがちですが、体を動かすことは健康的な生活の基本です。町民スケートリンクには、貸出用のスケート靴の用意もありますので、ぜひご利用ください！



講師の方の指導のもと、練習に励む子ども達

就学援助(新入学用品費等)についてのお知らせ

教育委員会では、お子様の小学校・中学校就学にあたり、経済的に困りの世帯に対して、新入学用品及び学用品の購入に必要な経費の援助を入学前に行っています。

●対象となる世帯 次の要件に該当する世帯

- ①お子様が令和7年4月に厚真町内の小学校又は中学校に入学予定の世帯
 - ②申請時に厚真町に住民票のある世帯
 - ③経済的に困りの世帯
- ※新入学用品等の扶助を受けた後、町内の小・中学校に入学しなくなった場合や、前年（令和6年）の収入が決定した段階で基準を満たさない場合は、返還手続きが必要になります。

●援助額（予定）

①小学生

新入学用品費	57,060円
学用品費	11,630円

②中学生

新入学用品費	63,000円
学用品費	22,730円

●援助時期等 令和7年3月上旬

（保護者の口座にお振込みします）

●申込期限 令和7年2月21日（金）

●必要書類

①令和7年度要保護及び準要保護児童生徒認定申請書（兼令和6年度新入学用品費等入学前扶助受給申請書）

（町HPからダウンロード、または教育委員会にも用紙があります）

②前住所地における令和6年度（令和5年分）課税所得証明書

※令和6年1月2日以降に厚真町に転入された方のみ

●その他

入学前に申請をしない場合でも、新年度に入り学校へ申請し認定となった場合は、7月頃に同額の新入学用品等の援助を受けられます。

12月定例教育委員会

12月26日に開催された定例教育委員会の会議内容についてお知らせします。

◆報告事項

厚真町教育支援委員会／生徒指導連絡会議／教育研究所第4回運営委員会／厚真町教育支援委員会／12月定例校長会議・教頭会議／令和6年度第2回厚真町心のサポート・防災学習推進協議会／英会話教室第2期／第2回～第4回二十歳のつどい実行委員会／100年先の厚真を創る、100の学び場プロジェクト「あつひやくミーティング」の実施／他3件

◆議案

厚真町立小中学校私費会計事務処理要領の制定について／他6件

◆協議

令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載について／総合教育委員会会議の開催について

★問合せ

教育委員会学校教育グループ
☎27-2494

子どもたちの安全確保のため “のぼり”を掲揚しています

厚真町では、すべての家を「ひなんの家」と位置付けています。
皆さんのご理解とご協力をお願いします！

交通事故はもちろん、不審者など、子どもたちの周りにはさまざまな危険が潜んでいます。

犯罪や事故から子どもを守り、地域の中でのびのびと生活できるよう、緊急避難場所の目印となる『ひなんの家』と、けん制・犯罪抑止を目的とした『子ども安全パトロール強化中』の“のぼり”（一部箇所は看板）を町内各所に設置しています。

家庭、地域、学校、町が一体となって防犯意識を高め、協力して取り組むことが重要です。子どもの安全を地域全体で守るために、皆さんのご理解とご協力をお願いいたします。

◆◆◆ お願い ◆◆◆

職員が地区巡回等で点検・交換を行っていますが、消耗や破損の激しいのぼりや看板が目につきましたら、ご連絡をお願いします。

★連絡先 教育委員会社会教育グループ ☎27-2495

ひなんの家

図書室だより

2025年も厚真町公民館図書室を よろしくお願いいたします



出版取次会社の日販が発表した、2024年の
ベストセラー本は、

1位「変な家 2 雨穴著」

2位「大ピンチずかん 2 鈴木のりたけ作」

3位「成瀬は天下を取りにい 宮島未奈著」

でした。いずれの本も図書室で所蔵しています。

厚真町公民館図書室の利用者の方に「他の図
書館で予約100人待ちの本でもここに来るとあるか
らうれしいわ」と褒められることがあります。複雑な胸
中ですが、使いやすい図書室であると褒めていただ
いているとプラスにとらえてお礼をいいます。

4月初めの本屋大賞発表にむけて、候補作が発
表される頃になりました。厚真町の図書室では直木
賞や芥川賞よりも人気がある文学賞です。ベテラン
作家も新人作家も区別なくノミネートされます。昨
年の宮島未奈さんのように、この本屋大賞受賞をき
っかけに大ブレイクする作家さんもいらっしゃるの
で、ぜひ注目してみてください。



季節のイベント

鬼さんにもお豆あげよう

絵本コーナーにおなかがすいた鬼さんたちがやってきたよ！
豆や手裏剣をたべてもらって鬼さんと仲良くなろう！

※鬼の口に豆や手裏剣などを投げ入れる遊び道具を設置します。遊んでくれた方
には、記録証を差し上げます。 設置期間：～2/28日まで



2月の休館日

11日(火) 建国記念の日

23日(日) 天皇誕生日

■青少年センター図書室開館時間

9時00分～17時00分(月・水・金・土・日)

9時00分～19時00分(火・木)

※祝日、年末年始は休館となります。

■厚南会館図書室

9時00分～17時00分(月～日)

※毎月5日・20日が土日・祝日の場合は
休館となります。

2月の「おはなしのびっ子」による絵本の読み聞かせは、

27日(木) 10時00分から10時30分まで

場所：厚南子育て支援センター

☆ 放 課 後 子 ども 教 室 活 動 報 告 ☆

毎年、年末にさしかかる2学期最後のプログラムで、しめ縄づくりをしています。昨年も12月に実施し、稲わらをよってつくった縄を丸く結び、良い年が迎えられるようお願いを込めて、御幣(ごへい)や和紙で飾りつけをし、子どもたちの個性が見えるしめ縄ができあがりました。しめ縄づくりは、放課後子ども教室が始まって以来13年、恒例としているプログラムです。米どころである地元の資源や、食材としての恵みはもちろん、稲わらも大切に使われてきたという先人の知恵を伝えようとプログラムに取り入れてきました。最初は町内にお住まいの名人のところへ行って、稲わらの下準備や、わらのより方を教わりました。刈りとられたあと、乾燥した稲わらに残る葉の柄をキレイにむいてゴミを落とし、木の棒でたたいて柔らかくします。30本程度の束をとって、穂先はまとめたまま2つに割り、手のひらでははさんでスライドさせながら、わらによりをかけていきます。そして、よりをかけながら2本の束を1つに編んでいくのですが、初めてづくり方を見せてもらったときには、頭の中で理屈を理解するのが追いつかず、先生の手から生み出される魔法のように見えました。厚真町に来て、地域の方々にたくさんの暮らしの知恵を教わってきましたが、このしめ縄づくりもまた私たちにとって大事にしていきたい財産のひとつです。手づくりのしめ縄を飾って、新しい年を穏やかに迎えられます。それがいかにありがたく、幸せなことか、しみじみと感ずるお正月となりました。

小学校の冬休み期間中、子ども教室の通常教室はお休みとなりますが、上厚真放課後児童クラブ(学童保育)と合同で、厚南デイサービスセンターの利用者さん、地域活動のあつま元気クラブさんと一緒に異世代交流企画を実施しました。昨年の夏休みに一度実施をしており、またぜひ冬休みにも、という声を受けて2回目の実施となりました。今回は、厚真郷芸保存会の皆さんにご協力をいただき、和太鼓を使ったリズム遊びを中心にプログラムを行いました。郷芸保存会に在籍する小・中・高校生が先生役となって、学童の子どもたちやデイサービスの利用者さんに、太鼓の打ち方とリズムのとり方を指導する場面も。最後には、2曲、演奏も披露していただき、間近で和太鼓演奏の迫力を体感することができました。感動して涙する人の姿もあり、子どもたちにとっても、おじいちゃん、おばあちゃんにとっても、お互いに良い刺激になったのではないかと感じています。子どもたちの夏休みと冬休みに合わせて、こうした交流会を続けていけるよう、児童クラブの支援員さん、デイサービスセンターの職員さん、関係各所とコミュニケーションをとっていききたいと思います。ご協力をいただいた皆さん、ありがとうございました。そして、今後どうぞよろしくお願いいたします。

